

当院における誤薬の現状とその対策

ISO9001 マネジメントシステムを通して

寄田 まなみ、和 淑梅、中川 真友子、川崎 真紀子、柳田 勝

大阪 渡辺第二病院

I. はじめに

与薬業務は、看護部組織のみで行うものではなく、医師の診察→処方記載→薬剤師による調剤→病棟に一時保管→個別患者への与薬といったチームの流れによって完成する。しかしながら、その行為に関して看護師の関わる比率は決して少なくない。

一方、ISO9001は、従来製造業や建築業の品質をマネジメントするシステムであり、当院では、平成16年11月よりISO9001によって病院の医療サービス全般をマネジメントしており、医療事故防止においてもこのシステムによってマネジメントしている。

今回、誤薬防止の対策にISO9001を適用したところ、誤薬減少に効果が見られたので若干の考察を加え報告する。

II. ISO導入以前の現状

当院は、病床数336床であり、その内訳は、老年期認知症病棟109床、精神科療養病棟60床、特殊疾患療養病棟167床、誤薬の件数は、平成15年度、平成16年度、平成17年度と平成18年5月31日までに医療安全委員会への報告された資料をもとに算出した。(表1、表2)

誤薬件数(表1)

誤薬件数	16年4月～平成16年12月～平成17年7月～			
	15年度	11月	平成17年6月	平成18年5月
内服薬	108	64	39	37
点滴・注射薬	31	19	8	14

月平均誤薬件数(表2)

月平均誤薬件数	16年4月～平成16年12月～平成17年7月～			
	15年度	11月	平成17年6月	平成18年5月
内服薬	9	8	5.5	3.4
点滴・注射薬	2.6	2.4	1.1	1.3

III. 原因分析

誤薬の原因として内服薬においては、人物間違い、与薬忘れ、同一患者への重複投与、薬局の調剤誤り、医師による記入間違い、トレイにおける与薬準備ミス、中止薬剤の継続投与、投与時間の間違い、薬剤の種類間違い、禁忌薬の投与などがあつた。

また、注射薬はインスリン注射の関連したものとそれ以外の点滴に関連した件数を算定した。

IV. 対策

ISO9001マネジメントシステムにしたがって、誤薬事故があれば、原因を分析し、計画し改善して経過をみる。そしてまた不適切な事象がおこれば、再度原因を分析して継続的な改善を行う。その結果、当院の取り組んだ誤薬防止対策の例をあげる。

V. 結果

内服薬の誤薬件数は、平成15年度、平成16年度の認証前(12ヶ月間に補正)、認証後(12ヶ月間に補正)を比較すると認証後に件数の減少傾向が見られた。注射薬においても、認証後に減少傾向が見られた。それぞれの原因においても、人物間違い、調剤間違い、処方記載間違い、投与時間の間違いが減少した。点滴関連の誤薬も減少が見られた。

VI. 考察

ISO9001の継続改善システムにしたがって、短期間にさまざまな対策がとられ、効果がないと次の改善策が計画、実施された。

その結果、内服薬、注射薬とも誤薬の頻度がほぼ半減し、誤薬の中でも、人物誤認、投与時間の誤認、処方記載間違い、調剤ミスの減少がみられた。特に、点滴に関する誤薬事故が減少していた。以上のことから、誤薬防止にISO9001のマネジメントシステムが有用であると思われた。